

開催地名	徳島県藍住町
開催日時	令和7年10月15日(水) 10:35 ~ 12:10
開催場所	藍住西小学校 体育館
語り部	井上 達彦(宮城県石巻市)
参加者	藍住西小学校4、5年生児童 教職員 町職員
開催経緯	毎年、語り部による防災講座について町内全ての小中学校へ実施希望を募っており、今年においてもほとんどの学校で実施を希望されておりました。調整の結果、今回は実施実績のない西小学校で実施することとなりました。
内容	<p>災害というものになにがあるか考えてほしい。地震、津波、大雨、洪水、土砂災害、火事などがある。自然災害と人的災害がある。火事のような、人的災害は未然に防ぐことができる。だが、自然災害についてはどうだろうか。大雨、洪水、土砂災害についてはラジオ、テレビなどの情報で事前にある程度は予測ができるものだ。しかし、どこで、どれくらいの規模のものか予測はできても発生予測ができないのが地震である。</p> <p>2011年3月11日、14時46分。日本では最大クラスのマグニチュード9.0、その地震の影響で大きな津波が私の町を襲い甚大な被害をもたらした。私は大津波警報が出たにも関わらず自宅にいた。「そんな津波が来るわけないだろう」と避難をしなかった。しばらくすると、外からゴーツと音がして、2階に急いで駆け上がった。真っ黒いへドロの津波が家に押し寄せてくるのを目の当たりにした。自宅の1階が津波の濁流で覆われた。私の家は3.8メートル浸水した。2階まで、もし津波が来ていたら、今頃、私は助かってはいない。「なぜ、あの時避難しなかったのだろう」と反省ばかりする。その時、防災の重要性を認識した。もう少し早く気が付いて避難をしていれば、地震、津波によって、大勢の人が亡くならずすんだ。津波で濡れた体が低体温になり、亡くなってしまう人もいた。</p> <p>ほんの少しの準備と、心の持ち方ひとつで災害から身を守ることができる。避難所での生活は、避難者がぎゅうぎゅう詰めでプライバシーが無く、ライフラインが停止していた状況の中で、亡くなる人がいた。東日本大震災の死者数は全体で約20,000人、行方不明者約2,600人。石巻市の死者数約3,600人、行方不明者は約420人。「こんな大きな災害が起きたら、自分はどうしよう・・・」と自分事に置き換えて考えてほしい。話で聞くだけではなくて、その時に自分な</p>

りに予測、予想をしてほしい。災害は忘れた頃にやってくる。日本では大丈夫といえる地域はない。

「後悔 先に立たず、転ばぬ先の杖、備えあれば憂いなし」

**自助：**自分の命は自分で守る。災害持ち出し用袋を自分で用意しているだろうか。必要最小限の物。家族みんな持ち物の中身は違う。いままで、被害がなかったから大丈夫など根拠のない安心は禁物。

**共助：**避難訓練への参加、避難訓練での学び。地域の人と助け合ってできること。隣近所とのコミュニケーション。要配慮者へのサポート。

**公助：**警察、消防、市、町などの公共支援。災害時はすぐに助けには来ない。災害時、大切なのは「自助と共助」である。

現在、私は石巻市防災士協議会で活動をしている。地震以降から発足した。もう、二度とあのような被害を繰り返したくないという思いから市で防災活動をしている。防災取り組みの中で、現在は健康重視をした避難所環境づくり、防災教室の学習活動などに力を入れている。

7つの約束！自分の命は自分で守る！

1. 普段から学校や自宅の周りの危険な場所を発見しよう！
2. 避難場所や避難所を確認しておこう！
3. 避難経路を複数覚えておこう！
4. 家族と合流する場所を決めておく！
5. 非常持出品（自分用）を準備しよう！
6. 津波注意報や津波警報・大雨警報・洪水警報など解除されるまでもどらない！
7. 予測されたほど被害がなかったら、避難をして損をしたと絶対思わないこと！



開催地より	<p>災害対応においては、事前の備えと住民一人ひとりの意識向上が極めて重要であることを改めて認識しました。特に地震や津波のように予測が困難な災害に対しては、警報や避難情報が発令された段階で迅速に行動することが、被害軽減の鍵となります。井上様の体験は、避難の遅れが命に直結することを示しており、行政としても「自助・共助・公助」の連携を強化し、住民が迷わず避難できる環境整備を進める必要があります。</p> <p>また、避難所の環境改善や要配慮者への支援体制の充実は、災害時の二次的被害を防ぐために欠かせません。防災士協議会の活動のように、地域主体の取り組みを行政が積極的に支援し、住民参加型の防災教育を継続的に実施することが望まれます。</p> <p>今回の講演を通じて、災害は「忘れた頃にやってくる」という教訓を再確認し、行政としても平常時からの備えを制度的に強化し、住民が安心して行動できる仕組みづくりを推進していく必要があると感じました。</p>
-------	---